

育の練習をなさしめ、幼児を愛護する念を養ふことは國家的に必要な施設であります。而して我が國でも今後このフランスの傾向を學ぶ必要は益々大となりつゝあるのではありますか。女學校を卒業するものが増加することは國家の慶事に相違ないが、爲めに家庭生活を厭ひて、獨身生活をなさんとするものか増加したり、また産児を強ひて制限したり、更に育児を好まない風が益々助長せられるならば、國家の前途甚だ患ふべきことではありますまいか。既にスランプの如き傾向を現出してから騒いでも及ばないではありますか。かく考へて來ると、吾人は高等女學校に於て保育を實習させて育児の興味を涵養し、育児の實際的手腕を養成することは實に目下の急務と考へるのであります。従つて高等女學校には洗濯教室、作法教室、また割烹教室の施設よりも、遙かに附屬幼稚園の經營が肝要であると考へざるを得ないのであります。今後我が國の家庭に於ける育児の改善を促がす上に於て、高等女學校は必ず附屬幼稚園を設置せねばならぬことを主張するのであります。敢へて高等女學校當事者並に文政當局の三省を希望するのであります。

踊 雛 の い ろ く

藤 五 代 策

雛と云ふことは、鳥が比々と鳴くことが變化したもので

菊とか云ふことになりました。

す。今では、物の小さくて愛らしいものを、雛型とか、雛

昔支那に郭虞と云ふ長者が、三人の美しい女の子をもつ

てゐました。毎日蝶や花やく愛してをるらちに、三人の子供は不圖した病が因となつて、三月上巳の日に棺を並べて死んで仕舞ました。村の人々は非常に悲しく思ふと同時にこの日をこの上もない災厄日だと信じて、毎年村内の老弱男女は此の日河の邊にて終日遊んで災害を河に流して所謂厄拂ひをしたと申します。其後時移り星變るに従ひて、此の厄拂の意味はどこへか消え失せて、杯を河水に浮べて遊ぶ洒落の樂みとなりました。之れが所謂蘭亭の曲水の宴の初まりであります。夫れよりだんく變化して終に雛祭とむすびつけられたのです。我邦では、源氏の光君が、自分の雛形をつくりて祝福し、後沖へ流したと申します。或は之れが雛人形の始まりであります。又奈良の法華寺の比々奈會では、綾錦を着せた人形に、供物をなしで祝福したことなどが史に見えて居ります。徳川初期までは、毛氈の上に立ち雛を立てゝ、女の子の遊びとしてをりました。其後京都に座り雛が出来て、立ち雛と相並んで、女の子に愛せられるやうになりました。又一方では皇室を尊ぶ意よりして内裏雛や親王雛なども作られることになりました。續いて

みみや (一)



た頃から、男子を祝福する端午の節句祭が隆盛に趣くに従ひ、上巳の雛祭もだんく旺盛に行はれることになりしました。

以上は雛祭の起源の大要であります。次に私の考案した
日清戦役の終つた。

治郎左衛門雛とか、京保雛などの、珍らしきものも生まれ、三代家齊公の時

初めて雛祭が儀式的に完成いたしました。其後二十年頃までは大した進展もなかつたのですが

かつたのですが

二十一年頃までは

大した進展もな

かつたのですが

一、みや雛

圖畫用紙を二つに折りて、其の一面に第一圖甲の雄雛を
書いて、鉄で切りぬきます。後頭部、肩、脊の周邊のみを
貼りつけて、下端の弧状部のみを前後に膨らむやうに開いて
机上に立てます。

今雄雛の一方の肩先を、一寸つけば、暫時間は左右に動
くので、子供には面白く感ぜられます。

この雌雛の作りも同様です。

二、かみ雛

圖畫用紙を二つに折りて、其の一面に第二圖甲の雄雛を
描いて切りぬきます。次に頭、袖、袴の外周ののみを糊で
貼りつけ、後、袴は縦に二分巾位に断ち切りて、ばらくま
に作ります。

今左手に盆を持ち、その上に此の雄雛を立て、右手にて
盆の底をトン／＼たゞけば、雄雛は、面白く踊り廻はります。

す。

乙の雌雛の作り方も前と同じです。

雛みか(二)

